

沖適連協議会「講演会」に参加して

佐久本さゆり先生の「構成的グループ・エンカウンター」の受講は、今回で3回目でした。研修の最初に行われた参加者全員の心をほぐす手法は、誕生日の順番がほとんどでしたが、ハイタッチ手法は初めての経験だったので、新鮮でした。大人は照れが入りますが、きっと子ども達は元気よく学級の友達と笑顔でタッチをするのだらうなと想像しながらやっていました。私や参加者の発表方法を聞いて、子ども達には「発表の方法」も見本として見せると、スムーズに全員が短時間で発表できるのではないかと思いました。また、教師側の元気のよさも学級の雰囲気に関わってくるので、担任はいつもはつらつと子どもと過ごしたいなと思いました。

ペアでのやりとり、グループでのやりとりでは、子どもが「先生、次は何をしますか?」「もうやっていますか?」と質問する様子が思い出され、そんな質問が出るのは次の活動にワクワクドキドキと楽しみにしているのだなと実感しました。しかし、エクササイズだけに陥らず、あくまでも「構成的グループ・エンカウンター」のねらいは、リレーションと自己発見、フィードバックと自己開示だと思っているので、エクササイズだけに陥らずに、シェアリングをしっかり行って、ねらいの達成につなげていきたいと思いました。その際、ただ楽しかった等のポジティブな感想だけでなく、緊張した、辛かった、つまらなかった、意外だった等のネガティブな感想も受け止める心の広さが重要だと思うので、心がけながらやっていたと思います。

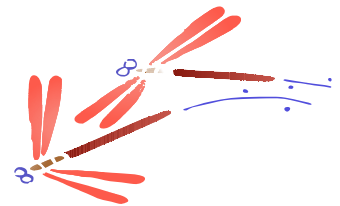
(外間)

今週の主な予定

	事柄
22日(火)	講演会(具志頭中)
23日(水)	職務会 個別ヒヤリング
25日(金)	ミーティング 小学校教育課程研

来週の主な予定

	事柄
30日(水)	宿泊研修 (~11/1)
31日(木)	県へき地研究大会 (~11/1)
11/1日 (金)	検証保育 我喜屋 先生



グループ・エンカウンターを行う上での留意点について考えさせられました。

まず、活動の楽しさだけで満足してしまうということに陥らないよう、しっかりとしたねらいを持つこと。次に、ねらいを達成するための適した活動内容や活動の場、時間を選択すること。

そして、参加者がねらいに即して活動を振り返られるように、参加者同士のシェアリングや自分でフィードバックする場をしっかりと設定すること。これらのことが重要であり、実際の活動の様子やそこでの子どもの反応も予測しておくことが欠かせないと感じました。

今日の活動は、まだ相手のことをよく知らない段階に、他者理解につながるものとして活用できそうでした。

講話の中での、「活動を通して、子どもの心をゆさぶる・たがやす」という言葉が出てきたのですが、その具体的実践法について詳しく知りたいと思いました。

(饒平名)

今回の研修会が幼稚園でどのように活かせるかを考えながら受講しました。

取り入れたい所は、子どもの内面理解です。子どもがどんなことを考えているのか、表情や行動から読み取ったり、観察すること。初めて何かをするときに、子どもがどこができてどこができていないのかをよく見て言葉をかけること。そして特に大事にしたいのが、「その子の今を大事にすること」今その子たちができていることを捉え、肯定的な言葉かけをすることです。

カウンセリングの受容は、幼児に安心感を与える上でとても大事だと思いました。

(仲本)

温かい人間関係づくりを促していくグループ・エンカウンター。

講演をきいて、子ども達の今の姿を認めて、言葉のシャワーを浴びせられるようにすることが子どもたちの自己受容につながっていくことがわかった。幼稚園でもグループ・エンカウンターを子どもの発達に合わせたねらいを持って実施し、やる前と後の姿をみてどう子ども達が変わっているのか変容をみていきたいと思

(仲村)

